



100年企業社員の わが社の「まじゅ」

社員の方の日常からわかる、
100年企業の魅力。



新本社ビルが、「第34回日経ニューオフィス賞」で奨励賞を受賞!



4階の多目的ホールは、ランチ、休憩の他、式典、イベントにも対応!



海、空、まち、若戸大橋、すべて身近で一望できる新鶴丸ビルの屋上。

#九州・沖縄ニューオフィス奨励賞
#選べる9のワークエリア
#快適かつ機能的なオフィス

#カウンターキッチンあり
#お弁当タイムが楽しみ
#社員ミーティングにも

#社員のお気に入りスポット
#花火大会の特等席?!
#夜景もロマンチック



佐賀県古湯温泉の地に家族サービスや、社員の交流に最適な保養所。



社員イチオシの新造船名山ゆかりの名!セメントタンカー「脊振山丸」。



丹頂鶴の双子の兄妹がイメージキャラクター♪HPでも活躍中!

#アルカリ性単純温泉
#川のせせらぎを感じる
#BBQも楽しめます

#平成30年10月に就航
#九州〜京浜・東北方面へ
#海も陸も安全運航第一!

#ツルオとマルコは11歳
#ふたりで「ツルマル」
#PC用の壁紙もあり

■ 鶴丸海運株式会社 本社:〒808-0034 北九州市若松区本町1丁目5-11 TEL.093-761-5631

■ 創業:1921(大正10)年8月 ■ 従業員:422名

■ 営業所:北九州・福岡・東京・大阪・愛媛・タイ(シーラチャ)・インドネシア(ジャカルタ)

■ 事業概要:海上運送業/内航海運業/内航運送取扱業/船舶代理店業/港湾運送事業/貨物自動車運送事業/自動車運送取扱業/倉庫業/通運事業/通関業/荷物梱包業/廃棄物収集・運搬処理業/構内作業及び機械荷役作業/クレーンリース業/機械組立据付業/土木建設業及び建設資材の販売・リース業/不動産の売買賃貸及び管理業/農水産品・建設機械荷役機械及びその部品・家庭用雑貨の輸入販売業/全各号に付帯し又は関連する一切の事業

(ホームページ) <http://www.tsurumaru.co.jp>

(YouTube) <https://www.youtube.com/channel/UCnOERnug1scAJGUWUdhmQw>

(Facebook) <https://www.facebook.com/鶴丸海運株式会社-1900908790194415/>



発行/若松プライド・プラスワン推進協議会(北九州市 若松区役所 総務企画課内) TEL.093-771-3559



この「若松レガシー」はポートレース若松の収益金の一部を活用して作成しています

JESCO北九州事業所は当事業に協賛します

令和4年3月発行

先代から受け継いだ
モノ、こころ



創業以来、100年にわたって受け継いできた「ツル」に「マル」のロゴマーク。シンプルなカタカナですが、海外の人には記号のようにも見えてインパクト大。積み重ねてきた伝統へのプライドが感じられます。

採用の取り組み、
働く環境



「若松を元気にするのに大切なのは地元で働く人口を増やすこと」と語る鶴丸社長。新鶴丸ビルではデスクはフリーアドレス制、リモートワーク対応設備の充実、癒しのリラクゼーション空間を設けるなど多様な働き方をサポートします。

ホームページ



YouTube



Facebook



100↑



若松レガシー

鶴丸海運株式会社

石炭の積出港として日本の近代化を支えた若松の誇り、100年企業を紹介するシリーズです。



鶴丸 廣太郎 初代社長

若松で101年 「鶴丸海運株式会社」の ひみつを探ってみた。

石炭の運搬から総合物流業へ。 海と陸をひらき“信用”を継ぐ。

石炭輸送を機軸に鶴丸商店を創業

筑豊炭田から石炭を運び出すために鉄道や港が整備され、洞海湾には石炭専用の機帆船がずらり林立していた頃、若松にはここで一旗あげようと多くの人が集まりました。石炭販売と海上輸送を担う「鶴丸商店」もその一つ。創業時には持ち船が事故にあうなど厳しい時期もありましたが、住友鉱業や三菱鉱業など大口の仕事で信用で勝ち取り、石炭需要の増加とともに成長していった会社です。

海から陸へ、多角的に事業を展開

しかし、第二次世界大戦の戦禍では所有する船舶を29隻失い大きな痛手を受けます。戦後復興や高度経済成長の流れで会社は再び息を吹き返しますが、石炭から石油へのエネルギー転換期には再び苦境に立たされました。それでもピンチを前向きにとらえて事業の多角化を図り、海上のみならず陸上輸送を充実。港湾運送や物流倉庫などを時代のニーズに合わせて展開し、1964(昭和39)年、現在の「鶴丸海運株式会社」に改名しました。

アジアに通ずる国際総合物流企業へ

その後は物流事業を中核に据え、多様な貨物種類や輸送モードなど幅広い顧客のニーズに応える専門性の高い総合物流企業であり続けた鶴丸海運。北九州市では、1981(昭和56)年から産業廃棄物の海上輸送に貢献。若松区響町や門司区太刀浦などに次々と物流倉庫を開設し、地元を拠点に事業を展開してきました。また、タイやインドネシアなどアジアにも進出。今後も国際物流事業の拡大を目指しています。2020(令和2)年12月には、創業の地に新鶴丸海運本社ビルを竣工。鶴丸海運の100年において、一貫して流れる経営哲学は「顧客第一主義」。物流は製造工程の一部と考え、「お客様の“困った”という課題を解決する企業でありたい」という熱い信念が、その礎を支えています。

主な所有船舶数など
【運航船舶】一般貨物船8隻/ガット船9隻/セメントタンカー15隻/外航船舶7隻
【保有車両】トラクター52台/トレーラー223台/大型貨物トラック19台/小型貨物トラック1台/クレーン8台
【特殊車両】低床トレーラー/ポルトトレーラー/ウィングトレーラー
【保有倉庫】倉庫拠点数 6拠点(国内4拠点、海外2拠点)
・倉庫数 北九州市32棟、福岡市1棟、大阪1棟、愛媛1棟、タイ4棟、インドネシア1棟
・倉庫総面積 国内66,147.57㎡、国外15,980㎡



趣味はゴルフ、ウォーキング、サイクリング、音楽という鶴丸社長。休日の思い出はゴルフでのホールインワンだそうです。

[インタビュー]

社長さんに聞いてみた。

鶴丸海運株式会社 代表取締役社長 鶴丸 俊輔さん

「若松で生まれ、育まれ、当社はまさしく生粋の若松の会社です」と鶴丸社長。若松を拠点に世界を視野に入れ、海運、物流事業を展開し続けています。

—101年続いた原動力は何でしょうか？

大きな危機は幾度とありましたが、その度に失敗を恐れずチャレンジし、時代に合わせて会社も社員も変化し続けたことが今につながっていると思います。最も大切にしているのは、お客様の信頼と社会への貢献。祖父であり創業者の鶴丸廣太郎は、世のため人のために奉仕する人でした。その志を受け継ぎ、一歩でも半歩でも前進させたい。原点に立ち返ると、いつも不思議と力がわいてきます。

—鶴丸海運ならではの強みや魅力は？

総合物流会社であることです。物流は間口が広く奥が深いため、当社では得意な分野に特化してきました。セメント海上輸送、鉄鋼製品の輸送と保管管理、また大型の特殊重量物の陸上輸送まで、北九州で培われたサービスや技術が、今では全国的に評価されています。もう一つは、社員が成長し、達成感を感じられる会社であることです。

—なぜずっと若松に？

海運業の場合、船は全国を移動しますから拠点はどこでも構いません。しかし若戸大橋の

ふもとで帆柱山が眼前に迫り、洞海湾を見晴らせる若松は、当社の過去、現在、未来が交差する唯一の場所です。創業の原点を失わないためにも若松なのです。

—完成した本社、新鶴丸ビルについて

外観は自然や周辺景観との共生を意識し、1階エントランスホールには若松や当社の歴史資料を展示。ホール天井部分のモチーフは機帆船です。若松を、多くの人々が集い、楽しく元気に働けるまちにしたいという願いを込めた新社屋は、「第9回北九州市都市景観賞」の建築デザイン奨励賞も受賞しました。

—これからの課題と展望をお聞かせください

海運会社が抱える最大の課題は船員不足です。しかしピンチはチャンス。厳しい時代こそチャンスがそこら中にあると思うとワクワクします。まずは若い人材を育てるためにも研修制度や人事制度を充実。きめ細やかな個人評価を行い、報酬や昇進など努力が報われる会社にしていこうと尽力しています。また今後は東南アジアを中心に拠点を増やし、海外事業展開を広げていきたいと思っています。

鶴丸海運 101年の軌跡

時代	年	出来事
大正	10 (1921)	若松港が第二種重要港湾に指定
	10 (1921)	8月、石炭商海運業「鶴丸商店」創業
	12 (1937)	小倉市日明小学校校舎一棟新築寄贈
	15 (1940)	高塔山公園整備に私財12万円を寄付
	20 (1945)	戦禍により船舶29隻を喪失
	31 (1956)	「鶴丸運輸株式会社」設立
	37 (1962)	現在地に新社屋落成
	38 (1963)	五市合併。若松市から若松区へ
	38 (1963)	倉庫業の認可を受け営業開始
	39 (1964)	「鶴丸海運株式会社」に商号変更
昭和	40 (1965)	企業再建3カ年計画を策定し、抜本的再建に着手
	41 (1966)	八幡製鐵(株)および日新製鋼(株)の小倉港指定貸倉庫となる
	56 (1981)	北九州市の産業廃棄物の海上輸送を開始
	61 (1986)	若松運輸部響灘営業所開設。若松区響町に倉庫を建設
	元 (1989)	門司区太刀浦に倉庫を建設。小倉西港に7号上屋を建設
	19 (2007)	タイに現地法人を設立
	25 (2013)	ひびきコンテナターミナル背後地に「ひびき物流センター」建設
	26 (2014)	インドネシアに現地法人を設立
	28 (2016)	インドネシア・ジャカルタに新倉庫を建設
	2 (2020)	12月、本社、新鶴丸ビルが完成
3 (2021)	8月20日、創業100周年	



若松への郷土愛—みんなが集い、楽しく活気あるまちに。

初代社長が高塔山公園の整備に私財を寄付。

鶴丸海運と若松の関わりは、高塔山公園にも見ることができます。ある時、創業者の鶴丸廣太郎さんは、地元へ何か恩返しをしたいと当時の若松市長に相談。「市民のための憩いの場がほしい」という要望に応え、高塔山公園の用地取得のために私財12万円を投じました。これは、現在に換算すると2億1600万円ほど。今も残る石碑の下部にあるプレートには当時のいきさつが記されています。

愛称「鶴丸ガーデン」を市民に開放!

鶴丸海運では、若松南海岸における市民の交流やまちの魅力度アップを図ることを目的として、新しく完成した新鶴丸ビルの前面に設けた愛称「鶴丸ガーデン」を広く一般市民に開放しています。散歩がてら円形ベンチに座ってホッとひと息ついたり、若戸大橋をバックに写真撮影を楽しんだり。心穏やかにくつろげる憩いスポットです。

人と環境にやさしい鶴丸海運

新鶴丸ビルで「新しい働き方」実践。CO₂排出削減で最高評価「5つ星」獲得。

人と環境にやさしい取り組みを進める鶴丸海運。新鶴丸ビルでは、業務の効率化や生産性の向上などを考慮し、「新しい働き方」に応えるオフィス空間を実現。働く人が働きやすい環境を整え、ITツールを活用してペーパーレス化を図るなどの改革を推進しています。

また、船舶の二酸化炭素排出量の削減にも取り組み、2021(令和3)年には、国土交通省が船のCO₂排出削減率を評価する「内航船省エネルギー格付制度」において「5つ星」や「4つ星」を獲得。フェリー航送などコンテナ輸送のモーダルシフト化もいち早く取り入れ、ドライバーの時間外労働の省力化などにも努めています。

